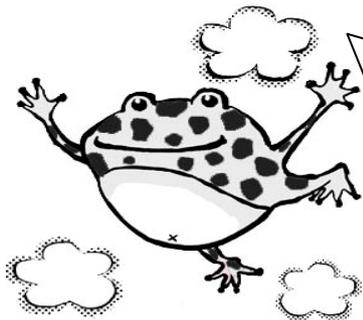


かえる便り 27年度13号

平成27年8月6日

残暑の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

人生において『最も高価な買い物は何か』と問われたら、多くの人は 家 と答えるのではないのでしょうか？ 家は千万単位の高価なものです。家の土台作りや骨組がしっかりしていないと完成後に様々な問題が出ます。左官や大工などの職人さんは弟子に対して“凄い剣幕で怒る”ことがあります。それは、プロとして安心できる家を提供したいという気持とプライドの現れではないのでしょうか？また、預かった弟子を一人前にする責任を感じてのことだと思えます…。



森先生曰く、『教育のポイントは、喜怒哀楽が調整できるようにすること』。本当にその通りだと思います。そのためには、指導者自身が研鑽を重ね、指導において“無理、無駄、斑”をなくす努力をすることが重要です。“観察し、ブレナイ基準、熟達”を心掛けたいですね。

最近の子供は 大人の真剣な指導＝感情を頭わにしてお本気で叱る姿＝に接する機会が少ないし、そのような大人が減っているのだから 大人を“見くびっている”のではないのでしょうか？先日、私の逆鱗に触れるような行動と態度をとった部員がいました。大人として指導者として絶対に許さないという姿勢を見せることは必要です。何故なら、家以上に高い買い物は“人”です。会社に40年勤務したら生涯で1億円以上の収入を得ます。会社が損をするような人材を探りたいと思いませんか？高等教育を受けた人に、採用後も継続して社内研修をする必要性が理解できますよね。 人材を人財 にするために研修するのです。集団を破壊する最大の脅威は、組織内の“人材の知性（想像力や判断力）不足による行動”や裏切りだからです。サッカーも技術や判断不足でチームの足を引っ張ることが多々あります。つまり、チーム内の“敵”により、敗退するのです。人として選手として成長させるために、厳しく自分と向き合わせ、真摯に努力させたいと思います。

自分は自分の主人公。

自分をりっぱにしあげていく責任者。

東井義雄